

## 平成18年度推奨の優良図書

平成18年5月推奨

『東京タワー』  
リリー・フランキー著  
高校生、青年及び一般対象

副題は「オカンとボクと、時々、オトン」。九州に生まれ、上京して学生生活を送った著者はオカンを東京に呼んで一緒に暮らし始めるが、やがてオカンの闘病生活が始まる。ガンで亡くなった母親をつづった自伝小説。

少年時代の話から、東京タワー近くの病院で母親の看病をし、最期を看取るまで、不器用に互いを思いやる親子の姿が胸を打つ。ユーモアの光る文章で生き生きと描かれるオカンを通し、かけがえのない家族という存在を見つめ直すきっかけとなるこの作品は、青少年の人間的な愛情を育て、豊かな人格形成に役立つものであり、推奨に値する。



扶桑社発行 ￥1,575 (税込)

平成18年5月推奨

『絵描き』  
いせ ひでこ著  
小学生、中学生、高校生、青年及び一般対象

一人の若い画家が、旅に出て、絵を描き、仲間と出会い、再び旅に出るまでを描いた絵本。絵を描くという事に対して、真摯に向き合う画家の姿勢や、描かずにはいられない苦しみと喜び、好きな事を追求するために避けられない努力と挫折、友人との出会いが描かれている。

好きな事を追求するという事の現実をあますことなく伝えている。好きな事をすればいい、と無責任に放り出すのではなく、それがいかに苦しいかを伝え、同時にその素晴らしさや喜びをも伝えるこの作品は、青少年の健康な心身の成長を図り、豊かな人格形成に役立つものであり、推奨に値する。



理論社発行 ￥1,500 (税込)

平成18年5月推奨

『きこえる きこえる えのおと えのこえ』  
長谷川 摂子著  
小学生、中学生、高校生、青年及び一般対象

作者の選んだ絵が、月毎に並べられ、子どもたちを絵の世界に誘う言葉が添えられている。その言葉からは、一つ一つの絵に込めた作者の愛情が伝わってくる。

この作品は『びじゅつのゆうえんち』シリーズの1冊。このシリーズは「子どものための美術の絵本遊園地。美しいもの、おもしろいもの、びっくりす

ること、わくわくすることをたくさん用意し、感性がグンと伸びる今、一生の宝になる素晴らしい思い出を持ち帰ってほしい。」との思いで作られたもの。子どものための美術の本であり、美術の素晴らしさを体感することができるこの作品は、青少年の美に対する感覚を醸成し、豊かな心を育むものであり、推奨に値する。



福音館書店発行 ￥1,500 (税込)

平成18年7月推奨

『イクバルの闘い』  
フランчесコ・ダダモ著  
小学生、中学生、高校生、青年及び一般対象

借金のかたに奴隷同然に売り飛ばされてしまったイクバル。過酷な労働を強いられる大人たちに疑問を持ったイクバルは、ある時、敢然と立ち上がり、それはやがて、同じような環境に置かれた子どもたちの意識をも変化させてゆく。

パキスタンの実在の少年をモデルにしており、世界の各地で、多くの子どもたちが借金のかたに売り買いされ、強制的な労働を強いられているという現実を伝える作品。どんな境遇でも希望や夢を失わず、果敢に立ち向かう勇気を持って生きることの素晴らしさを教えてくれるこの作品は、青少年の倫理観の涵養と、豊かな人格形成に役立つものであり、推奨に値する。



鈴木出版株式会社発行 ￥1,470 (税込)

平成18年7月推奨

『もったいない』  
プラネット・リンク編集  
小学生、中学生、高校生、青年及び一般対象

「もったいない」のスローガンで有名な、ノーベル平和賞受賞者で、ケニア共和国環境副大臣のワンガリ・マータイの思想・行動に共鳴した有志の集まり「プラネット・リンク」がリデュース（削減）・リユース（再使用）・リサイクル（再利用）の3つの“R”をわかりやすく解説している。

ワンガリ・マータイは「もったいない」という言葉について、「3つのRを、たった一言で表しているのが素晴らしい。」と述べています。今、世界が見直しているにもかかわらず、現代の日本人が忘れがちな「もったいない」の精神を考えさせるこの作品は、青少年の社会的良識と倫理観の涵養に役立ち、地球環境に対する敬けんな心を育てるものであり、推奨に値する。



マガジンハウス発行 ￥1,000 (税込)

平成18年7月推奨

『鹿よ おれの兄弟よ』

神沢 利子著

幼児、小学生、中学生、高校生、青年及び一般対象

鹿を獲って暮らし、鹿とともに生きる漁師を描いた作品。シベリアの森を舞台に、人間・自然・動物の関係を、力強い詩と、心に迫る東洋的な細密画で見事にあらわしている。

著者は『くまの子ウーフ』や『たまごのあかちゃん』で有名な児童文学者であり、絵を描いたパブリーシンは「ロシア人民美術家」の称号を持ち、国内外で数々の賞を受賞しているシベリア出身の画家。美しい叙事詩の文で、命への畏敬を抱き続けた少数民族の思いを伝えるこの作品は、青少年の人間的な愛情を育て、自然を愛し、自然の尊厳さに対する敬けんな心を育むものであり、推奨に値する。



福音館書店発行 ¥1,785 (税込)

平成18年7月推奨

『戦火の爪あとに生きる - 劣化ウラン弾とイラクの子どもたち - 』

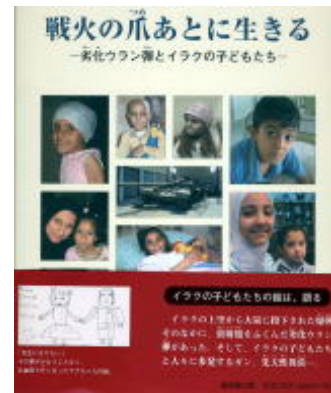
佐藤 真紀著

中学生、高校生、青年及び一般対象

1991年の湾岸戦争、2003年のイラク戦争で米軍が使用した「劣化ウラン弾」による深刻な放射能汚染の実態を伝える作品。放射能による病と闘う子どもたちが描いた絵を通し、イラク・戦争・劣化ウラン弾などを学ぶ本。

～自分の国だから、こんどは自分たちイラク人の手で再建していくんだ～  
将来へのかすかな希望を、そう語った白血病の少年・アッパーズ君は故郷が再建されるのを見ることなく、僅か9歳でこの世を去った。

たとえ病に冒されても、自分の未来を信じる子どもたちの笑顔が胸を打つ。劣化ウラン弾や、戦争を引き起こす原因をわかりやすく解説している。命の重さと、決して希望を忘れない心を教えてくれるこの作品は、青少年の人間的な愛情を育て、豊かな人格形成に役立つものであり、推奨に値する。



童話館出版発行 ¥1,890 (税込)

平成18年11月推奨

『ダーチャのいのり』

木崎 さと子著

小学生(低学年及び中学年)対象

“ダーチャ”は小さな青い家。冬のとても寒いある日、ケガをした子どものトナカイが泣いていた。ついにトナカイは死んでしまうが、ダーチャの必死の祈りが天に届き、雪原に幸せなクリスマスがやってくる。

世界には飢えや戦争で苦しむ子どもがたくさんいる。「自分一人の力では、何もしてあげられない、どうすることもできない。」と思っても、全ての子どもたちの幸せを願う祈りは、世界の子どもたちを救うことができるの

ではないか、と感じさせてくれる1冊。傷ついた者、弱い者を思いやる暖かみにあふれたこの作品は、青少年の人間的な愛情を豊かに育てるものであり、推奨に値する。



女子パウロ会発行 ¥ 1,260 (税込)

平成18年11月推奨

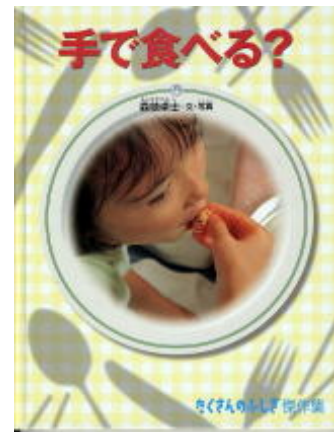
『手で食べる? (たくさんのふしぎ傑作集)』

森枝 卓士著

小学生対象

外国では、どんな道具を使って、どんな風に食べ物を食べるのかをテーマに、様々な文化を身近に味わうことができる作品。

文化によって異なる食べ方の違いにとどまらず、その違いが生まれた原因など、テーマを深く掘り下げている。マナーの違いにも触れ、韓国では日本と逆に、「ご飯の器を手に持つのはお行儀の悪いこと」など、子どもだけでなく、大人にも新鮮な内容となっている。「食べる」という身近なテーマから、楽しく国際理解を学ぶことができるこの作品は、青少年の正しい知識を深め、豊かな心をはぐくむものであり、推奨に値する。



福音館書店発行 ¥ 1,365 (税込)

平成18年11月推奨

『夜のピクニック』

恩田 陸著

中学生、高校生、青年対象

高校生活最後の行事「歩行祭」は、夜通しで80kmをひたすら歩く大イベント。主人公の貴子は、このイベントで、クラスメイトの西脇融に話しかけようとしていた。何故なら、ある秘密により、2人は3年間ほとんど会話をしていないからだ。融になかなか話しかけられない貴子だが、友人に背中を押された2人は、わだかまりを精算するように、お互いの気持ちを語り合う。

作品には、生徒たちの将来の夢、不安、恋や友情といった想いが鮮やかに描かれている。“夜のピクニック”で起こる様々な人間模様を通して、どんなに不器用でも、自分で考え、自分で決断し、前向きに生きることの大切さを教えてくれるこの作品は、青少年の健全な心の成長を図り、豊かな人格形成に役立つものであり、推奨に値する。



新潮社発行 ¥ 1,680 (税込)

『泣き虫しよったんの奇跡』

瀬川 晶司著

中学生、高校生、青年対象

瀬川晶司氏は、戦後初めて、将棋のプロ棋士を養成する「奨励会」を経ずして編入試験でプロ入りした棋士。瀬川氏には、かつて奨励会に属していたものの、夢かなわず、年齢制限により退会したという過去があった。

プロ棋士になれなかった絶望から、一時は死ぬことまで考えた瀬川氏が、周囲の人々の様々な助けを得ながら、「不可能に近い」と言われたプロ編入試験に挑んでゆくこの作品は、青少年の精神力の向上を図り、豊かな人格形成に役立つものであり、推奨に値する。



講談社発行 ￥1,575 (税込)

平成19年2月推奨

『みんなのきもち』

村上 しい子著

小学生(低学年)対象

学校で「じぶん いがいの ものの きもちになってみましょう」という発表をすることになった主人公のはちろうくん。何の気持ちになるのか悩むはちろうくんだったが、夕飯に出てきた「おでん」に文句を言ったことから思わぬ事態に！なんと「おでん」が逆襲にやってきたのだ。

どこか親しみやすい挿し絵、リズムの良い関西弁の文章により、飽きることなく、最後まで楽しく読むことができる。自分以外の物の気持ちになってみると、物だけではなく、他人の気持ちもわかってくるんだよ、というメッセージを伝えてくれるこの作品は、青少年の人間的な愛情を育て、豊かな人格形成に役立つものであり、推奨に値する。



学習研究社発行 ￥1,260 (税込)

『荒野のマーくん その受難』

花形 みつる著・やまだないと絵

小学生(高学年)、中学生対象

平和なマーくん一家の前に、ある夜、突然現れた見知らぬ美少女。彼女は、自分がマーくんの父親の娘だと告げると去ってしまい。マーくん一家に思わぬ“隠し子騒動”が起きる。そのことで、ママは実家に帰ってしまい、マーくんは生活能力が全くないダメな父親と、食べる物にも事欠くという悲惨な生活に突入していく。

続く『荒野のマーくん その試練』との二部構成。

\* 推奨理由については、下段『荒野のマーくん その試練』参照。



偕成社発行 ¥ 1 , 2 6 0 ( 税込 )

『荒野のマーくん その試練』  
花形 みつる著・やまだないと絵  
小学生（高学年）、中学生対象

前作で思わぬ騒動に巻き込まれてしまったマーくん一家。崩壊してしまった家庭を何とかしなければと、マーくんは父親の隠し子を名乗ったあの美少女を探し歩く。ついに美少女タキザワを発見したマーくんだったが、あとうことか、彼女に夢中になってしまう。

両親に振り回され、いやおうなく自立への道を歩む主人公。そんな主人公の苦勞にも関わらず、全く変わらない両親。家族の修復は形だけだと気付いているシビアな設定だが、主人公が親に頼らず、自分で行動し、自立していこうとする姿は、青少年の心の成長を図り、豊かな人格形成に役立つものであり、推奨に値する。



偕成社発行 ¥ 1 , 2 6 0 ( 税込 )